

水とくらしの 今昔

いつの時代にも、水は私たちのくらしに欠かせないものです。そして、人力に頼っていた時代から、機械でいろいろなことができる時代へと変わったことから、水とのかかわり方も変わってきました。

井戸と伏流水

総社市の水道水は、高梁川の伏流水（地下水）です。水は、市内11か所（上水道のみ）の水源から取り入れられます。そして、ポンプ場、配水地をへて皆さんの家庭に届けられています。

水道がなかった時代には、各家庭には井戸が掘られ、下の写真のようなポンプで水をくみ上げていました。



洗い場



上の写真のような用水路に降りていく階段を見たことがありますか。ここでは、流れてくる水を使って、収穫した野菜や洗たくものを洗ったり、風呂の水をくみ上げたりしていました。

最近では、水道の普及によって使われることも少なくなりました。また、用水路の改修などで少しずつ姿を消しています。

水車と足踏み水車

今は、ほとんど見ることはなくなった水車。川の流れを利用して水車を回し、水車小屋のなかにおかれた米や麦を粉にしていました。

また、「足踏み水車（下の写真）」という水車があります。田植えの準備のため、足で踏んで用水路の水を田に入れていました。これも今ではなかなか見ることができません。

